



平成27年度 決算概況

平成28年6月3日
株式会社 トーハン

1. 概況
2. 貸借対照表と損益計算書
3. 決算解説
4. 平成28年度方針

1. 概況－1



◇平成27年度決算は減収増益決算

- 平成27年度の総合売上高は473,733百万円で前年比98.5%と減収になりました。
- 返品率は39.4%で前年より0.1ポイント上昇しました。
- 営業利益は6,142百万円で前年比101.6%、経常利益は3,896百万円で前年比95.1%となりました。
- 当期純利益は2,316百万円、前年比108.2%の減収増益決算となりました。

◇営業概況

- 書籍とMM商品は、売上前年比100%をクリアしましたが、雑誌とコミックが前年割れとなり、特に雑誌の不振が売上減少の要因となりました。
- 書籍は、送品の質の向上に努め、初版適正仕入並びに売行良好書の重版獲得を強化いたしました。「TONETS V・スコアVを活用した売場改善」「客注増加施策」「店頭活性化プロジェクト」の＜3つの柱＞の主要施策も貢献し、また「火花」等の大型商材にも恵まれた事もあり、書店店頭POS実績も前年比100.1%と好調でした。
- 雑誌は、書店部門、CVS部門共に様々な改革・改善に取り組み、定期購読促進、並列販売、仕入配本業務の改善等の増売施策を展開し、下半期には実売率の向上等一定の成果が見られました。
- コミック部門は、人気作品の終了や電子書籍の拡大等の影響でマーケットが縮小している中、TONETS iを活用してテレビ番組で大ブレイクした集英社「キングダム」等を中心に売行好調な既刊商品の仕入強化を図りました。
- MM商品は、CD・DVDの不振を他のマルチメディア商材や複合店舗開発が補い、前年比100.4%となりました。

1. 概況－2



- **TONETS V・スコアVを活用した売場改善**

「TONETS V」「スコアV」を活用した店頭売場改善を継続しました。「書店スコア」の目標を60ポイント以上として取り組んだ結果、3月末には57.2と前年に対し1.3ポイント改善しました。「スコア」60以上店のPOS実績は、全国実績を1.7ポイント上回っています。
- **客注増加施策**

書店における客注増加施策を強化し、1,542書店で客注を積極的に獲得する取り組みを実施しました。POSに占める客注占有を3%まで高める目標を掲げ、1.5%の占有からスタートしましたが、3月末時点で、3.1%と目標を達成しました。客注増加取り組み店の店頭POS実績は、全国実績を1.2ポイント上回っています。
- **店頭活性化プロジェクト**

異業種とのコラボによる「WOWOW連動企画」「全国文豪ゆかりの宿プレゼントキャンペーン」「映画テラフォーマーズ連動フェア&キャンペーン」の大型3企画では書店の発信力を強化し、ぴあ株式会社様との共同事業「TOPIA PROJECT」では、書店の来店者とイベント動員の相互送客を実現しました。中でも「全国文豪ゆかりの宿プレゼントキャンペーン」では45万件という大規模な応募が集まりました。また「書店イベントチケット取次事業」の取り組みも開始しました。
- **複合化による新しい書店モデル**

複合店舗開発は、「add文具」の売場導入が目標150店に対し159店を達成、累計で246店となりました。本を増売するための時間消費型の複合化提案が結実し、出版物の売上も向上しました。
- **新商材**

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社様の協力により、書店におけるディズニー関連グッズの独自展開を行いました。異業種とのMVPブランド商品については、株式会社タカラトミー様と「トミカ武将コレクション」等のオリジナル商品開発を行いました。
- **外販企画**

外販商品への積極的な取り組みが出版社に浸透し、書籍企画の新規出版社取扱拡大と、雑誌(ムック)・MM商品企画の拡充となり、前年比110.6%と伸長いたしました。
- **市場開発**

各種施策並びにトータルな提案が評価され、新規取引先の増加やM&Aにより、計画を大きく上回る事が出来ました。

2. 貸借対照表と損益計算書



貸借対照表

平成 28 年 3 月 31 日 現在

【第69期】

(単位:百万円)

資 産 の 部			負 債 及 び 純 資 産 の 部		
科 目	金 額	増減額	科 目	金 額	増減額
資産の部	316,000	-3,491	負債の部	216,034	-4,744
流動資産	221,412	-8,511	流動負債	203,037	-7,818
現金・預金	19,862	-575	支払手形	6,847	-113
受取手形	3,347	-50	買掛金	176,383	-3,059
売掛金	129,652	-1,957	短期借入金	1,600	-2,450
有価証券	31,029	-4,286	1年以内返済長期借入金	0	-950
商品	18,075	-523	未払勘定	9,315	-1,121
短期金融資産	15,000	-300	預り勘定	1,152	-48
繰延税金資産	1,481	-136	諸引当金	7,268	+94
その他の流動資産	6,706	-1,005	その他の流動負債	470	-170
貸倒引当金	-3,742	+324			
固定資産	94,588	+5,020	固定負債	12,997	+3,074
有形固定資産	37,059	-1,261	長期借入金	3,400	+3,400
建物・構築物	14,176	-467	退職給付引当金	6,404	-99
機械装置	1,699	-215	その他の固定負債	3,192	-226
土地	20,241	±0			
その他の有形固定資産	940	-578	純資産の部	99,965	+1,253
無形固定資産	2,054	-978	株主資本	98,366	+1,350
投資その他の資産	55,474	+7,259	資本金	4,500	±0
投資有価証券	41,208	+5,670	資本剰余金	1,130	±0
長期繰延税金資産	1,996	+4	利益剰余金	93,905	+1,898
その他の投資等	16,344	+1,669	利益準備金	1,125	±0
貸倒引当金	-4,074	-84	その他利益剰余金	92,780	+1,898
			自己株式	-1,169	-548
			評価・換算差額等	1,599	-97
			その他有価証券評価差額金	1,599	-97
資産の部合計	316,000	-3,491	負債・純資産の部合計	316,000	-3,491

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

(単位:百万円、%)

科 目	金 額	前年比
売上高	473,733	98.5
売上原価	422,733	98.4
売上総利益	50,999	98.6
販売費及び一般管理費	44,857	98.2
営業利益	6,142	101.6
営業外収益	4,550	95.6
受取利息	628	97.3
その他の営業外収益	3,921	95.4
営業外費用	6,796	101.3
支払利息	44	76.4
売上割引	6,032	101.9
その他の営業外費用	719	98.4
経常利益	3,896	95.1
特別利益	11	42.6
特別損失	85	102.7
税引前当期純利益	3,822	94.6
法人税等	1,506	79.2
当期純利益	2,316	108.2

売上高内訳

(単位:百万円、%)

種 別	金 額	増減額	前年比	返品率
書籍	184,544	+2,296	101.2	41.2
雑誌	170,290	-9,638	94.6	46.4
コミック	56,787	-109	99.8	28.8
MM商品	62,110	+264	100.4	11.8
合計	473,733	-7,186	98.5	39.4

株式会社トーハン

3. 決算解説



- 総合売上高は473,733百万円、前年比98.5%の減収となりました。
- 売上総利益は、50,999百万円、前年比98.6%となりました。
- 販売費及び一般管理費は、全社的なコスト削減で経費の最小化に取り組んだ結果、前年比98.2%と売上総利益の伸長率に比べ0.4ポイント下回りました。この結果、営業利益は6,142百万円で前年比101.6%となりました。
- 営業外収益と営業外費用を加減した結果、経常利益は3,896百万円で前年比95.1%となりました。
- 特別利益と特別損失を加減し、税引前当期純利益は3,822百万円、前年比94.6%となりました。しかしながら法人税率の引き下げ等の影響もあり、当期純利益は2,316百万円、前年比108.2%の減収増益決算となりました。
- B/S面では、自己資本比率は31.6%と、前年より0.8ポイント増加し、全体的な財務基盤は引き続き堅調に推移しております。
- なお、配当につきましては1株につき、6円の安定配当を続けます。
- ◎ 連結決算(連結子法人14社)は、売上高488,362百万円(前年比98.6%)、経常利益3,570百万円(前年比91.2%)、親会社株主に帰属する当期純利益1,615百万円(前年比101.3%)で減収増益の決算となりました。

4.平成28年度方針



- **主要施策3つの柱「TONETS V・スコアVを活用した売場改善」「客注増加施策」「店頭活性化プロジェクト」の継続・拡大**
 - ・TONETS V・スコアVを活用した売場改善
スコアとPOS実績には相関関係があることが確認されています。「適在適書」の導入と的確な運用で書店の「書店スコア」60以上を目指します。
 - ・客注増加施策
「ブックライナー 本の特急便」については利用拡大、サービスの告知を徹底することにより、施策参加書店の客注占有4%への拡大を目指します。
 - ・店頭活性化プロジェクト
大型企画年3本の立案実施と「TOPIA PROJECT」の全国展開、「イベント取次」の利用促進を強化します。
- **雑誌売上対策**
 - ・従来の実績参照配本を見直し、新雑誌配本システムを7月に稼働させ、書店で必要とする部数を積み上げた「マーケットイン」型の仕入配本方式を構築し、雑誌仕入配本改革を行います。
 - ・雑誌予約支援サービスを開始し店頭オペレーションの効率化を図り、また雑誌前号並列販売の拡充をいたします。
- **複合売場開発の拡大**
 - ・複合売場のパッケージメニュー「add文具」を150店(累計400店)に導入するとともに、大型文具売場「nota nova」開発とカフェ事業を推進します。
- **CVS(コンビニエンスストア)対策**
 - ・3月より実施中の新方式による仕入配本改革の検証を行い、雑誌売上の回復に取り組みます。
- **PI(パブリッシャーズ・インキュベーション)推進プロジェクト**
 - ・良書出版に取り組む新規出版社を多面的にサポートし、出版事業の育成につとめます。
- **人材育成、女性・若手の活躍推進**
 - ・運用を開始したトーハンセミナーハウスは、書店や出版社に広く利用を促し、出版業界発展のための人材育成に尽力します。
 - ・国内大学院および海外への派遣研修等を継続し、さらに女性活躍推進・社員の活躍を支援する制度を拡充してまいります。